



Elche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

チター演奏会開催

演奏の間に解説する先生



加藤理事からの花束を渡す上杉さん



先生を囲んで



毎年恒例の日本チター協会会長内藤敏子先生(当協会理事)によるチター演奏会は、7月5日(土)2時より、JR西船橋駅近くの「フローラ西船」にて開催された。当日は臼井日出男名誉会員はじめ35名の会員及びその知人が参集。内藤先生は「アルペンローゼの咲く頃」を皮切りに、毎回御馴染みの「第三の男」など9曲(下記)を弾いて下さり、いつもながらの楽しいひと時を過ごすことが出来た。

その話の中から一部をご紹介しますと…。

- ・チターは、チター族により作られたが、初めは弦が少なかった(現在は46弦)。
- ・「わが町ウイーン」を作曲したジキンスキーはこの曲の大ヒットで満足し、他に作曲はしなかった。
- ・紀子様も内藤先生に師事、出産前後も宮内庁病院で修士論文を書きながら、チターの練習を続けられていた。
- ・先生は国立癌センターでチターによるケアを10年余り続けていて、患者さんから大変喜ばれている、等々。

演奏会終了後、懇親会に移り、先生の紹介で参加された金沢氏ご夫妻はお嬢さんがサントリーホールでの先生の演奏会で隣り合わせた青年と結婚されたとの話を披露。又、先生のご好意で9月27日(土)のチター演奏会の入場券4枚を頂戴し、会場で抽選の結果、加藤歯科医院に勤める上杉寿美さんと他一名が当選された。

(上記以外の演奏曲:「子猫達」「ファッション」「80日間世界一周」「エーデルワイス」「ローレライ」「心への道」)



加藤理事

—今後の催しもの案内—

■ ヴァルナー武官・ゲーペル武官歓送迎会

11月の慰霊祭に大使館よりの花輪を献花して頂く武官が交代されますので、皆様のご参加をお待ちします。(先着15名)

・日時：9月8日(月)18:30～21:00

・場所：上智大学「ソフィアンズクラブ」

電話：03-3238-3075(JR四谷下車3分)

・会費：2,500円

・発起人：

1. 千葉県日独協会：会長 平尾浩三、副会長 国枝誠昭、専務理事 金谷誠一郎
2. (財)日独協会：常務理事 花井清、常務理事 河村繁一、事務局長 宮藤宏
3. 「横浜港ドイツ艦船爆破事件を語り継ぐ会」幹事 石川美邦(神奈川新聞)
4. 旧海兵77期有志「CHOR 7」団長 澤登典夫、団員 青木一郎

参加希望者は住所・氏名及び「千葉県日独協会会員」と明記の上、下記いずれかの方法でお申し込み下さい。

宛先：(財)日独協会

* 葉書：102-0083 千代田区麹町5-1

* FAX：03-3265-3420

* email：jdg@jdg.or.jp

■ 講演会とビール祭り

・日時：10月4日(土)14:30～18:00

・場所：JR西千葉駅前プラザホテル1階
喫茶「サン」(TEL:043-241-8051)

・会費：3,000円

・講演：「ドイツの歯科医療と大学生活」

講師：日大松戸歯学部 松江美代子助教授



前列右より鈴木理事、藤倉会長、国枝副会長
花井(財)日独協会常務理事。両者の間が筆者

鳴門日独友好協会との親善交流会に参加して

加藤和子(当協会理事)

五月三十一日東京及び千葉県日独協会会員十三名は浜松町より鈴木理事の指揮の下、夜行バスで台風予報の中、鳴門へ出発。途中、凄い風音と殴りつけるように降る雨音を夢の中に聞きながら朝六時に到着した時は瞬間風速三十八メートル。

タクシーで着いたホテル「はま」は、ご主人が鳴門日独友好協会の会員。亀井鳴門市長、藤倉会長さんより歓迎の挨拶があり、それによると第一次大戦後、約千人のドイツ兵が鳴門の板東俘虜収容所にいたが、「お遍路さん」に対するお接待の心で住民は彼らと交流。リュウネブルグ出身者が多かった為、三十年前に徳島市は姉妹都市となり、その三年後に当時スペイン風邪で亡くなったドイツ兵の供養塔をお守りする目的で鳴門日独友好協会が発足。会員はリュウネブルグ視察団に参加した者で現在百六十五名。

その後、藤倉会長の案内で、先ず四国遍路八十八ヶ所の一番札所霊山寺へ。緑に囲まれた収容所跡の奥にある兵士の墓や大麻比古神社境内の丸山公園にあるドイツ兵士が石だけを積み上げて作ったドイツ橋、収容所で地元の人々との交流の様子が再現されているドイツ館などを見学。

当時の収容所長、松江豊寿大佐は会津藩士の息子で「兵士は愛国者であつて犯罪者ではない」との考えで接したため、彼らは住民に色々な技術指導をし、またスポーツ・音楽活動もして日本で初めて第九全曲をこの地で演奏した。後に米国のサムナー・ウエルズ国務次官は「歴史上これほど人道的な扱いをした俘虜収容所はない」と激賞したという。

夕方はドイツ館においてモゼル・ワインベルグ社のアドルフ・シュミット会長、ワインの女王も出席して二百人で賑やかにワインパーティー。

翌朝は台風一過晴天の下、渦潮を見物、更に大塚国際美術館で「泰西名画」(陶板名画千七十四点)を鑑賞。午後二時より鳴門市文化会館での第九演奏会へ。今年、第九が日本で初演されて八十五年目、鳴門市での演奏会は二十二回目でドイツから来日したソプラノ、アルムト・マリヤンネ・クロールさんと「全日本第九を歌う会」総勢五百二十名の大合唱には圧倒された。

夕方六時よりホテル「はま」に於いて亀井市長さんも参加されて鳴門日独友好協会と千葉県日独協会の交流会が開催され、藤倉会長よりスライドをまじえて協会二十六年の歩みを拝聴し、当協会国枝副会長から千葉県日独協会の現状説明が行なわれた。更に全員で楽しくコーラスを合唱し、ドイツパンのお土産まで頂いて夜十時の夜行バスで家路に。

今回の旅行で大変お世話になった鳴門の皆様方に、心より厚く御礼申し上げます。